

卒業生状況調査(2019年度実施)

調査目的 卒業生の状況把握を行うことでより良い学生支援へつなげるとともに、教育活動の見直しや改善を行い、教育内容の充実や社会で活躍する人材の育成等に活用することを目的とする。

調査実施日 2019年5月23日～6月10日

調査対象 卒業後1、3、5年目の卒業生

調査方法 メールにて実施対象の卒業生に調査依頼を送信。メール本文の質問事項に答えて返信する。

調査件数 1518件(内訳:2015年3月卒業:500件、2017年3月卒業:516件、2019年3月卒業502件)

調査内容

1. 卒業後の就職先
2. 職務内容
3. 現在の状況
4. 働いていて良いと思う部分について
5. 働いていて改善して欲しい部分について
6. 入社(職)後、入社(職)前のイメージと同じだったか
7. 在学中に受けた教育内容やサービスは現在の仕事に活かしているか
8. 就職を希望する学生に就職課より伝えて欲しいこと

調査結果 ■回答件数

42件(企業:26件、病院・施設:9件、公務員・学校:7件)

(内訳 2015年3月卒業:5件、2017年3月卒業:9件、2019年3月卒業26件、卒業年不明2件)

■現在の状況

企業	在職 24件
	退職 1件
	転職 1件
病院・施設	在職 6件
	退職 2件
	転職 1件
公務員・学校	在職 7件

■働いていて良いと思う部分について

職場の雰囲気が良く人間関係が良好である、研修やフォローアップ体制が充実している、福利厚生に満足しているとの回答が多いことから、卒業生は良い職場環境で職務に励むことができていると考えられた。また、確実に定時で帰宅できるとの回答が数件あり、卒業生からの貴重な情報として就職支援に役立てたいと考えている。

■働いていて改善して欲しい部分について

業務を見直して残業を減らして欲しい、有休休暇が取れるように環境を整えて欲しいという意見が多かった。また、残業代が支払われないという回答もあった。

■入社(職)後、入社(職)前のイメージと同じだったか

入社(職)前のイメージと同じだったという回答が多かったが、思っていたより業務量が多かった、事務仕事が多かったなどの回答があり、会社説明会などに積極的に参加し、実際の業務をしっかりと把握しておくことが重要だと考えられた。

■在学中に受けた教育内容やサービスは現在の仕事に活かしているか

学内の実習や臨地実習で学んだことが現在の仕事に活かしているとの回答が多かった。また、栄養士等の資格職以外に就いた卒業生も、大学で学んだ知識が仕事に役立っているようであった。より専門的な学びとして、経腸栄養、静脈栄養、個人を対象とした栄養教育、設備が整っていない環境での大量調理などについての学びがあると良かったとの意見があり、今後の課題ととらえている。

■就職を希望する学生に就職課より伝えて欲しいこと

「言葉使い・箸の持ち方・字の綺麗さなど細かいところを見られるので、在学中に直せるところは直しておいた方が良い(学校)」、「工場勤務に抵抗がある人がいると思うが、働いてみると案外働きやすかったりするので、前向きに考え視野を広げてほしい(食品メーカー)」など、後輩たちに向けてのアドバイスを多数いただいた。これらのアドバイスを、より良い就職支援に活かしていきたいと考えている。